

Super Taikyu FUJI SUPER TEC 24hours Race  
スーパー耐久 スーパーテック富士 24 時間レース

国内最長レース“富士 24 時間”で PIAA ユーザーが躍進！  
PIAA のライティングシステム装着の GTNET GT3 GT-R が大会 2 連覇を達成  
ST-X クラスで PIAA 装着の GT-R ニスモ GT3 が表彰台を独占！



#1 GTNET GT3 GT-R 総合優勝（2連覇）

ST-Z クラス、ST-3 クラスでも優勝を果たし、PIAA のサポートチームが 3 クラス制覇を達成！



#3 ENDLESS AMG GT4 (ST-Z クラス優勝)



#34 TECHNO FIRST RC350 (ST-3 クラス優勝)

## ■概要／Outline

2008年の十勝24時間レースを最後に国内での開催が見合わされてきた“24時間耐久レース”が2018年に復活。大成功を果たした国内最長レース「富士 SUPER TECH24 時間レース」が6月1日-2日、静岡県の富士スピードウェイを舞台に開催された。

今年もスーパー耐久の第3戦として開催されており、計8クラスに総勢48台がエントリー。国内レース競技で唯一ナイトセッションが行われるイベントとなっているだけに、ライティングシステムのサプライヤーとして国内外のモータースポーツシーンで活躍するPIAAも数多くのチームをサポートしており、各クラスでPIAAユーザーが活躍した。

なかでも注目を集めたのが、FIA-GT3モデルを対象にしたST-Xで、PIAAのライティングシステムを装着した「GTNET GT3 GT-R」が総合優勝を獲得し、大会2連覇を達成。さらに同じくPIAAのライティングシステムを採用する「MP Racing GT-R」が2位、「TAIROKU RACING GT-R GT3」が3位入賞を果たしたことでPIAAユーザーが最高峰クラスで表彰台を独占した。

一方、2001cc~3500ccまでの後輪駆動車を対象にしたST-3クラスでもPIAAの強力な補助ランプを採用した「TECHNO FIRST RC350」がクラス優勝を獲得。さらに、ホモロゲーションの関係で灯火類こそ変更できないものの、ST-Zクラスに参戦したENDLESS SPORTSの「ENDLESS AMG GT4」もPIAAのサポートチームで、FIA-GT4モデルを対象にした同クラスで勝利を獲得している。

このように2019年の大会でもPIAAユーザーは、総合優勝を含めて3クラス制覇を達成。PIAAのライティングシステムのパフォーマンスを改めて証明した。

## ■レポート／Report

2008年の十勝24時間レース以来、国内としては10年ぶり、富士スピードウェイとしては50年ぶりとなる24時間レース「富士 SUPER TEC24 時間レース」が2018年に開催。国内外から数多くのチームが参戦し、各クラスで激しいバトルが展開されるほか、コースサイドでは多くのレースファンがキャンプやバーベキューをしながらレース観戦を楽しむなど、まさに“富士24時間”は大きな成功を収めたが、その国内レースシーンで最長の距離と時間を誇る特別な一戦が帰ってきた。今年もスーパー耐久の第3戦として開催され、計8クラスに48チームがエントリー。国内外から有力チームおよびトップドライバーが過酷な耐久レースに参戦した。

富士スピードウェイは24時間レースの開催に備えて照明設備を増設してきたことから、ナイトセッションでも各コーナーは明るく照らされていたが、優勝を目指す主要チームにとっては、ライティングシステムの強化が課題となっていたのだろう。その要望に応えるべく、ライティングシステムのサプライヤーとしてWRC（世界ラリー選手権）やニュルブルクリンク24時間レースで豊富な実績を持つPIAAを、富士24時間で数多くのチームが採用していた。

そのなかで、最も注目を集めたのが、最高峰クラスに位置するST-Xクラスで、同クラスはFIA-GT3モデルを対象で同クラスには4台がエントリー。そのうちの3台がPIAAのライティングシステムを装着したニッサンのFIA GT3モデル、ニッサンGT-RニスモGT3だった。

ニッサンおよびニスモではヘッドライトおよび補助ランプとともに、PIAAのライティングシステムをFIA公認パーツとして装備しており、ヘッドライトもデイセッション用のLED仕様からナイトセッションに合わせてHID仕様に変更するなど、ニュルブルク24時間レースの経験をもとに実績のあるユニットを採用。今大会でもPIAAのライティングシステムを持つ「GTNET GT3 GT-R」、「MP Racing GT-R」、「TAIROKU RACING GT-R GT3」の3台が予選から激しいタイム争いを展開したほか、決勝でもスタートからチェッカーまで激しいトップ争いを展開していた。



#1 GTNET GT3 GT-Rは昨年に続き2連覇を達成！



#9 MP Racing GT-R

#300 TAIROKU RACING GT-R GT3

5月31日（金）、好天の空の下で開催された予選でトップタイムを叩き出したのは、TAIROKU RACING GT-R GT3で、昨年の大会ウィナーであるGTNET GT3 GT-Rが予選2位で決勝のフロントローを確保。6月1日（土）の15時、曇天のなかで幕を開けた決勝でも TAIROKU RACING GT-R GT3 とGTNET GT3 GT-Rが激しい一騎打ちを展開した。レース展開は TAIROKU RACING GT-R GT3 が逃げ、粘り強く追うGTNET GT3 GT-Rがピット作業で逆転……という展開を繰り返していたが、スタートから20時間後に TAIROKU RACING GT-R GT3 に駆動系のトラブルが発生。ミッション交換に約1時間20分の作業を強いられたことから、コンスタントな走りを続けたGTNET GT3 GT-Rが逆転に成功した。

その結果、6月2日（日）の15時、大きなトラブルなく801周を走破したGTNET GT3 GT-Rがトップでチェッカーを受け、総合優勝を獲得すると同時に大会2連覇を達成した。それに続いてMP Racing GT-Rが2位入賞を果たすほか、レース終盤でマシントラブルに祟られた TAIROKU RACING GT-R GT3 も3位で表彰台を獲得。PIAAのライティングシステムを搭載したマシンが最高峰クラスのST-Xで表彰台を独占した。

一方、2001cc~3500ccまでの後輪駆動モデルで争われるST-3クラスで最も著しい躍進を遂げたのが、補助ランプとしてPIAAのHIDライティングシステムを採用したレクサスRC350「TECHNO FIRST RC350」だった。



#34 TECHNO FIRST RC350

予選こそ2位に甘んじていた TECHNO FIRST RC350 だったが、決勝では第3スティントで首位に浮上。その後も数多くのライバルが脱落するなか、TECHNO FIRST RC350 は安定した走りを披露し、後続を引き離していった。結局、ノータラブルで24時間を走破した TECHNO FIRST RC350 がST-3クラスを制覇。ちなみに2位に入賞したレクサス RC350 の「5ZIGEN ADVICS RC350 TWS TRACY」、3位に入賞した同じくレクサス RC350 の「ADVICS muta racing RC350 TWS」もPIAAユーザーで、撥水シリコンゴムワイパーを採用していた。



#38 ADVICS muta racing RC350 TWS



#5ZIGEN ADVICS RC350 TWS TRACY

また、長年に渡ってスーパー耐久で活躍する ENDLESS SPORTS もPIAA のサポートチームで、2019年の富士24時間レースには、ST-2クラスにメルセデス AMG GT4 の「ENDLESS AMG GT4」、ST-4クラスにはトヨタ 86 の「ENDLESS・86」と2台のマシンを投入していた。



#3 ENDLESS AMG GT4



#13 ENDLESS 86

FIA-GT4 クラスを対象にした ST-Z クラスはヘッドライト、補助ランプともにホモロゲーションの関係で変更は許されていないが、ENDLESS AMG GT4 は素晴らしいパフォーマンスを発揮。開幕戦の鈴鹿、第2戦のSUGOで2連勝を果たしていることから、ENDLESS AMG GT4 は50kgのハンディウエイトに苦戦し、予選は2位に惜敗していたが、決勝は86周目にトップへ浮上した。その後もENDLESS AMG GT4 はノートラブルで24時間レースを駆け抜け、ST-Zクラスの制覇を達成し、開幕3連勝を達成。

一方、1501cc~2000ccまでのマシンでST4クラスでもENDLESS・86は予選こそ4位に出遅れていたが、決勝では86周目に3番手、94周目に2番手に浮上するなど、素晴らしい追走劇を披露。残念ながら逆転優勝こそ果たせなかったが、ヘッドライトにPIAAのHIDシステムを採用したENDLESS・86はイベント最大の激戦区として知られるST-4クラスで2位入賞を果たした。

そのほか、1500cc以下の車両で争われるST-5クラスでは、ヘッドライトをPIAAのHIDシステムに変更したほか、補助ランプにもPIAAのユニットを採用したホンダのフィット3「THE BRIDE FIT」が4位に入賞したほか、ST-4クラスではPIAAの撥水シリコンゴムワイパーを装着したトヨタ86の「5ZIGEN ADVICS SPV 86」が4位入賞を果たすなどPIAAユーザーが躍進。



#### #4 THE BRIDE FIT …ヘッドライト、ドライビングランプにPIAAライティングシステムをインストール

2度目の開催となった2019年の富士スーパーテック24時間レースは、FCYこそ3回に渡って導入されたが、セーフティカーの導入もなく、801周を刻むハイペースな展開となり、PIAA採用チームが3クラスを制するなど各クラスで躍進した。

グランドスタンド側のイベント広場ではNAPAC加盟メーカーがPRブースを出展し、アウトドアで活躍するエクストレイルのデモカーにTerzo キャリアや新作オフロード系アルミホイールを装着。ライティングシステムをデモンストレーション点灯、モータースポーツ系新作アルミホイールを展示するなど、来場のファンへPRさせて頂きました。



グランドスタンド側のイベント広場でPIAAブースを展開、ホイール、ライティング、Terzo キャリアなどを展示！